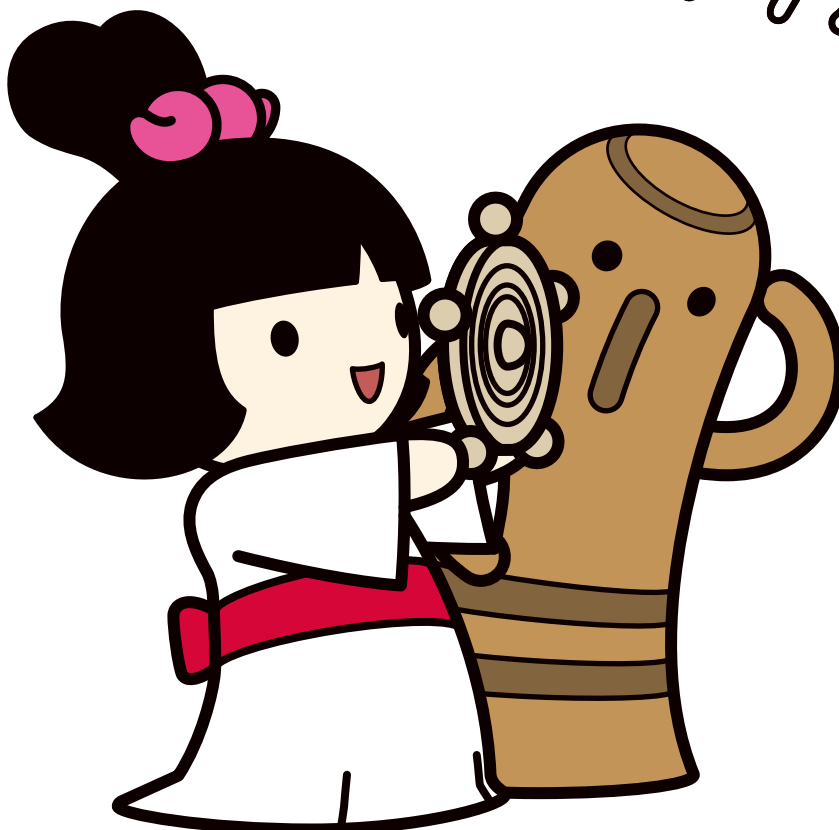


～しだみこちゃんシリーズ 2～

しだみこ
ちゃん と まほうの
ががみ



たず
訪ねてみよう!

くにしていしせき
国指定史跡 志段味大塚古墳



◎古墳の形

ほたてがいしきこふん
帆立貝式古墳

◎古墳の大きさ

ふんぎゅうちよう
墳丘長51m

◎出土品

第1埋葬施設 五鈴鏡、装身具(帯金具)、
武器(大刀、鉄鍬)、武具(冑、小札甲)、
馬具、工具

第2埋葬施設

盾

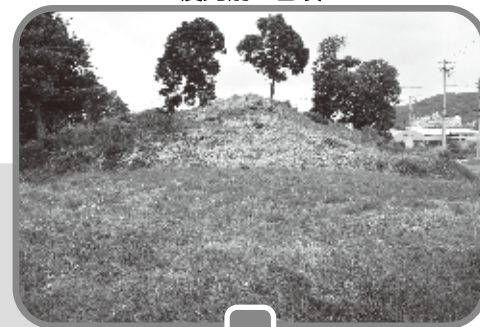
墳丘

埴輪、須恵器、土師器

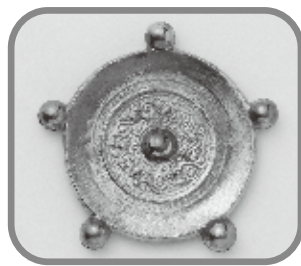
◎年代

5世紀後半(古墳時代中期)

ふくげんまえ こふん
復元前の古墳



ふくげん こふん
復元された古墳



これいぎようふくげん
五鈴鏡(復元品)

れいぎよう
鈴鏡

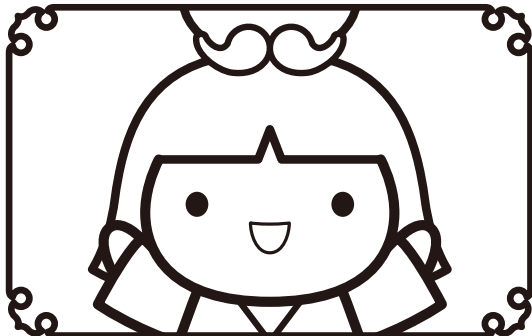
かがみ すず わきよう
鏡のまわりに鈴をつけた国産鏡(倭鏡)で、鈴は鏡と同時につくられています。鈴のなかに小石が入っています。鈴鏡は、5世紀後半に鈴付の馬具の影響を受けて制作されたと考えられています。

これいぎよう まいのうじ
志段味大塚古墳の五鈴鏡は、この頃に製作されたもので、埋納時に鏡面を上に向けて頭部付近に置かれたと推定されています。

このおはなしに登場するキャラクター

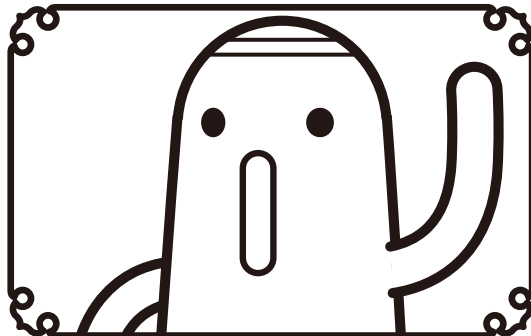


しだみこちゃん



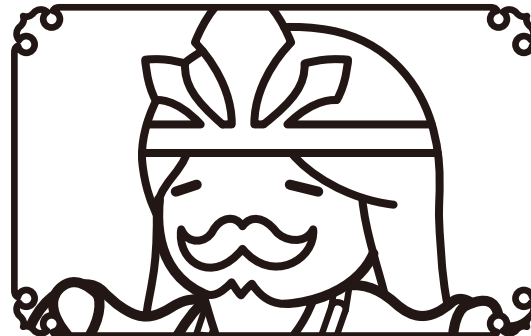
しだみこ^{ふんべん}で^{ひかし}に^{ほんさいこ}志段味古墳群から出てきた東日本最古級の「巫女形埴輪」がモデル。

はにわうじたける



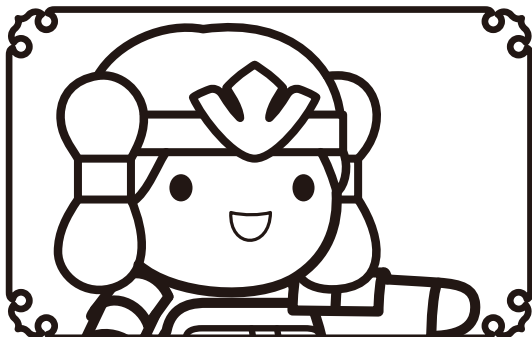
しだみこちゃんの付き人^{ひと}として^{たんじょう}誕生しました。

かみさま



このおはなしのなかでは、しだみこちゃん^{こま}が困った時、アドバイス^{とき}をします。

やまとたけるのみこと

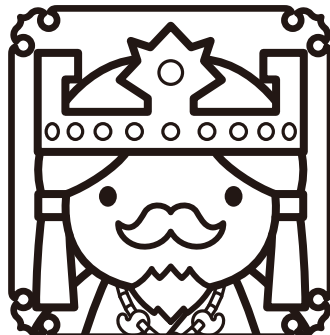


「古事記」では^{やまとたけるのみこと}倭建命、「日本書紀」では^{やまとたけるのみこと}日本武尊と書かれています。伝説の^{えいゆう}英雄。景行天皇の^{だいさんおうじ}第三皇子。

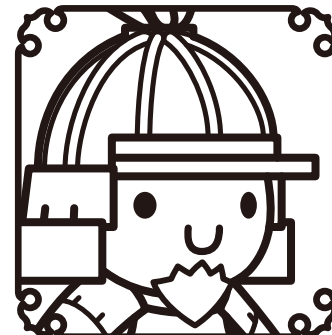
おらびと



海の向こうの
クニの王様



しだみの王様

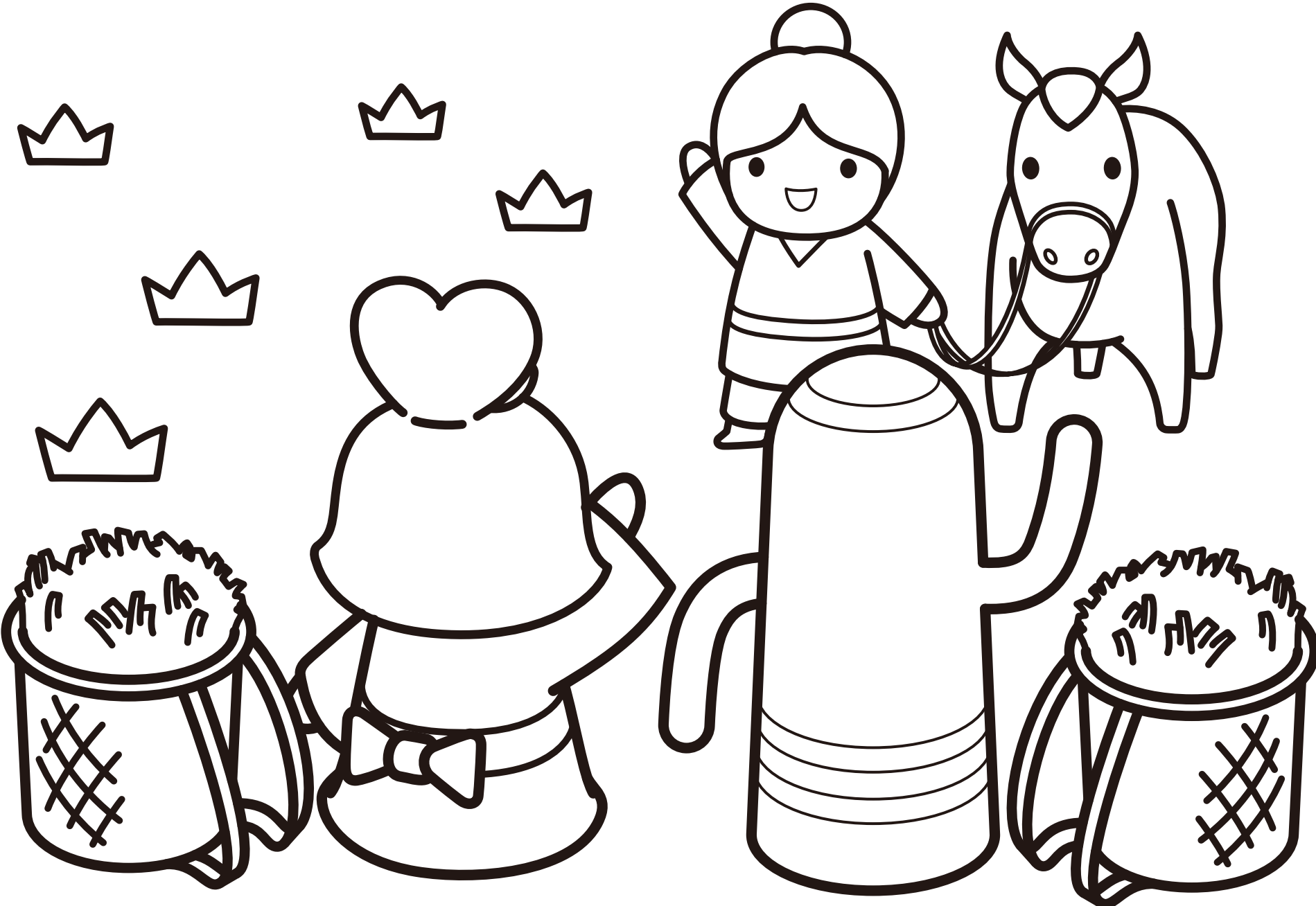


ひゅうーん。山^{やま}からさわやかな風^{かぜ}が吹^ふいています。川^{かわ}を見下ろす高^{たか}
台^{だい}の道^{みち}を、しだみこちゃんとはにわうじたけるが、てくてく歩^{ある}いて来^き
ました。ふたりは大きなかごを背^{おお}負^せっています。

かごの中には、あふれんばかりのほし草^{くさ}がはいっています。
道^{みち}端^{ばた}には赤^{あか}や黄^き色^{いろ}の小^{ちい}さな花^{はな}が咲^さきみだれています。でも、しだみ
こちゃんは、お花^きつみに来^きたのではありませんでした。



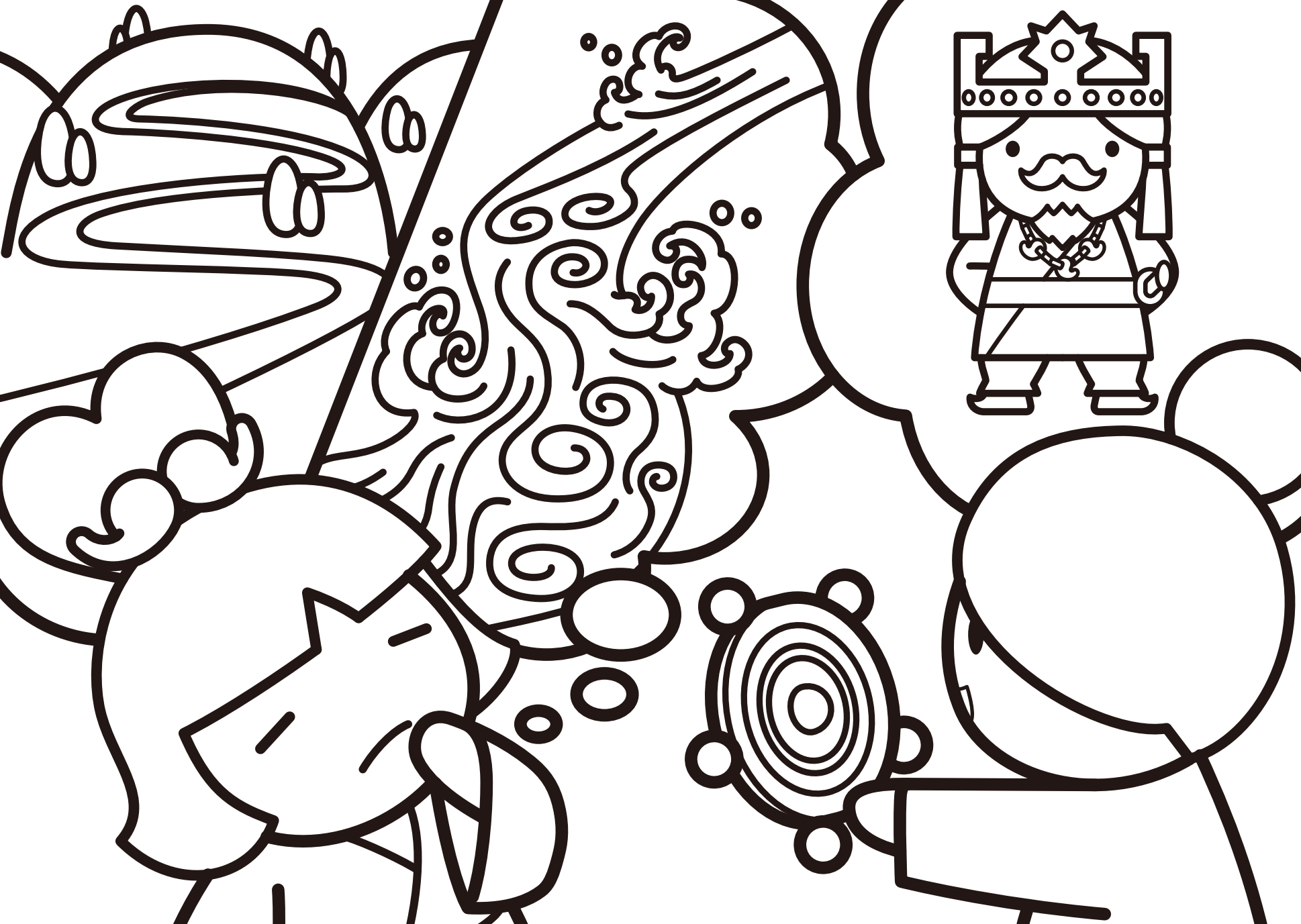
しだみこちゃんがやってきたのは、^{まき} ^ば牧場でした。牧場ではむらびとが、しだみこちゃんとはにわうじたけるが^く来るのを^ま待っていました。「しだみこちゃん待ってたよー。ほし^{くさ}草をもってきてくれたかい」「はい。かごいっぱいにはこんできたよ」「かごいっぱいだって。それはうれしいな。お^{うま}馬さんがおなかをすかして^ま待っていたんだ」しだみこちゃんとはにわうじたけるも、むらびとといっしょに、ほし草を馬に^た食べさせました。



きょう 今日^{きょう}はしだみこちゃんや馬^{うま}にとって特別な日^{とくべつ ひ}でした。しだみこちゃん
は、これから海^{うみ}の向こう^むのクニの王様^{おうさま}に馬をとどけなければなら
ないのです。けわしい山道^{やまみち}やあばれ川^{がわ}がまち受^うけています。「お馬さ
んを連れて行くことができるかなー」しだみこちゃんは、ちょっと心^{しん}
配^{ばい}です。

心配^{がお}顔のしだみこちゃんを見て、むらびとが言^いいました。「しだみこ
ちゃん、この鏡^{かがみ}を持って行くといいよ。この鏡^{こま}は、困^{こま}った時^{とき}やあぶな
いめにあった時^{たす}、助^まけてくれる魔法^{まほう}の鏡だよ」

しだみこちゃんは、五^{いつ}つの鈴^{すず}のついた鏡^うを受け取りました。さあ、出^{しゅつ}
発^{ぱつ}です。ほし草^{くさ}をたくさん食^たべた馬^{げんき}は、元^{ある}気に歩^{ある}きだしました。



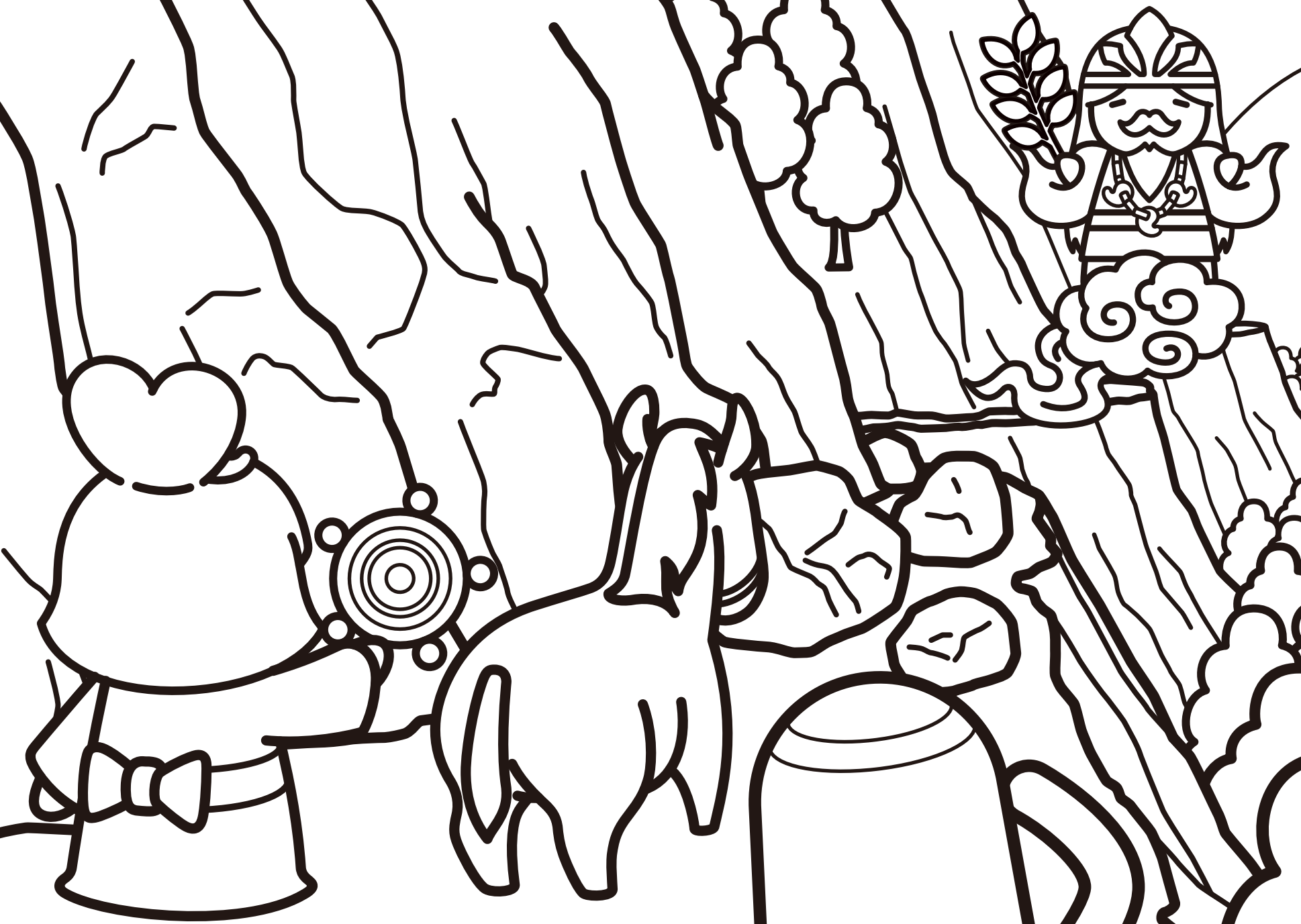
しばらく歩いていくと、目の前に大きな山が見えてきました。馬が息をきらしながら登っていきます。しかし、石がごろごろ落ちていきます。あしをふみはずすと谷底へまっさかさまに落ちてしまいそうです。馬は、こわがって歩かなくなりました。

しだみこちゃんは、困ってしまいました。「そうだ！鏡の力を借りよう」しだみこちゃんは、鏡をふってお願いしました。すると、鏡についた鈴が一つ鳴り、かみさまの声が聞こえてきました。

「しだみこちゃん。この榊で石を清めてごらん」しだみこちゃんは、言われたとおりに、榊で清めました。

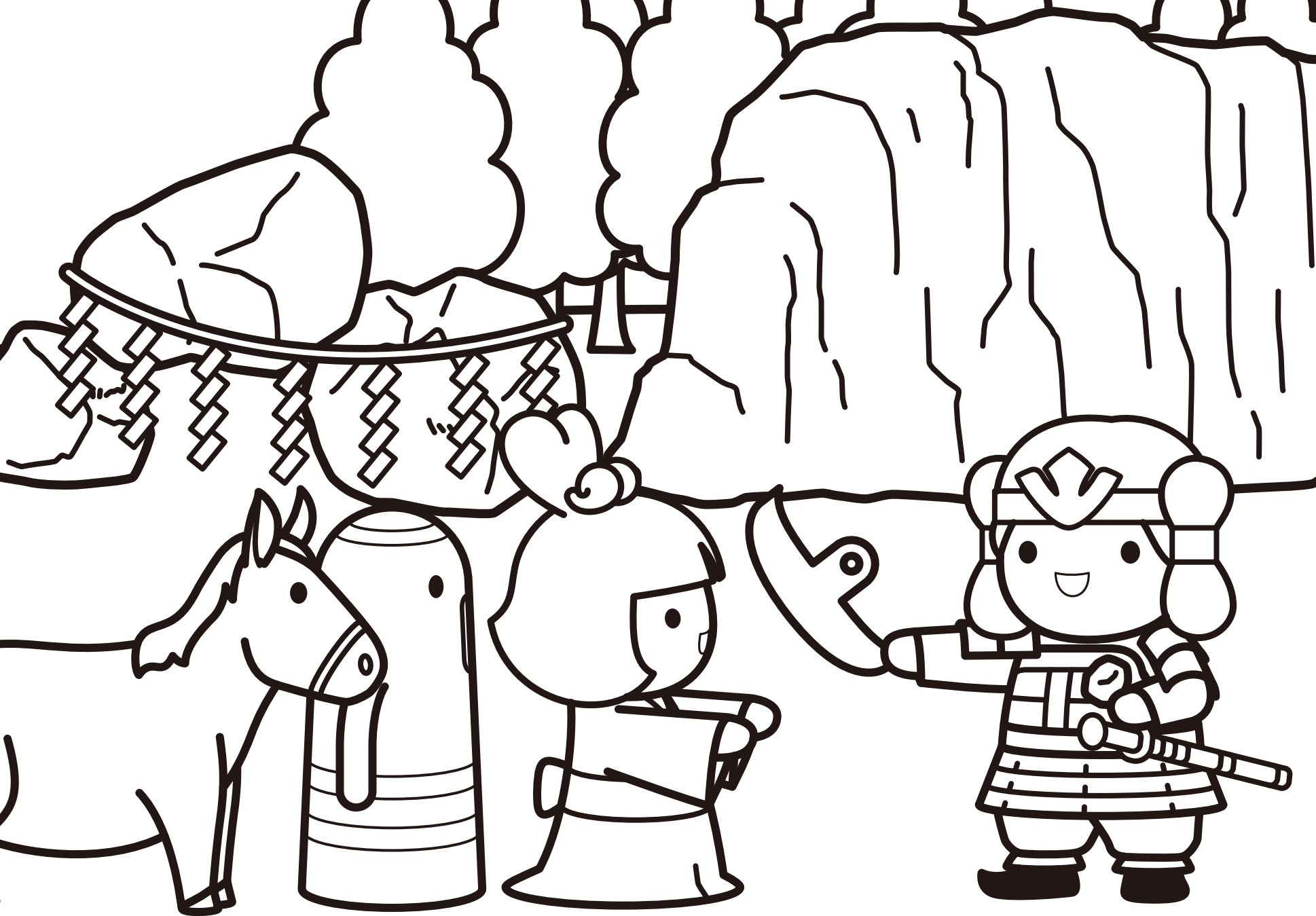
するとどうでしょう。

石を簡単に道の脇へよけることができました。「これは不思議。鏡さんありがとう」こうして無事、山を登ることができました。



とうげ

峠までやってきました。そこにはいわくらがありました。いわくらに
おまいりすると、やまとたけるのみことが、大きな岩の間からあらわ
れました。「しだみこちゃん、よく来てくれましたね。旅のお守りにこ
の火打道具をさずけよう」「ありがとう。やまとたけるのみことさま」
しだみこちゃんは、お礼を言って、馬とまた歩きだしました。



ふたたび^{やま なか ある}山の中を歩いていると、なんだかこげくさいにおいがして
きました。^{やま か じ}山火事がおこったのです。^{もり}森の中から、^{しか いのしし とり}鹿や猪、鳥たちが
あわてて^に逃げていきます。

しだみこちゃんは、^{こま}困ってしまいました。「そうだ! ^{かがみ ちから か}鏡の力を借りよ
う」しだみこちゃんは、^{ねが}鏡をふってお願いしました。すると、鏡につい
た鈴が^{ふた な}二つ鳴り、^{こえ き}かみさまの声が聞こえてきました。

「しだみこちゃん。やまとたけるのみことからもらった^{ひ うちどう ぐ}火打道具で、
火をつけてごらん」しだみこちゃんは、^い言われたとおりに、火をつけ
ました。

するとどうでしょう。

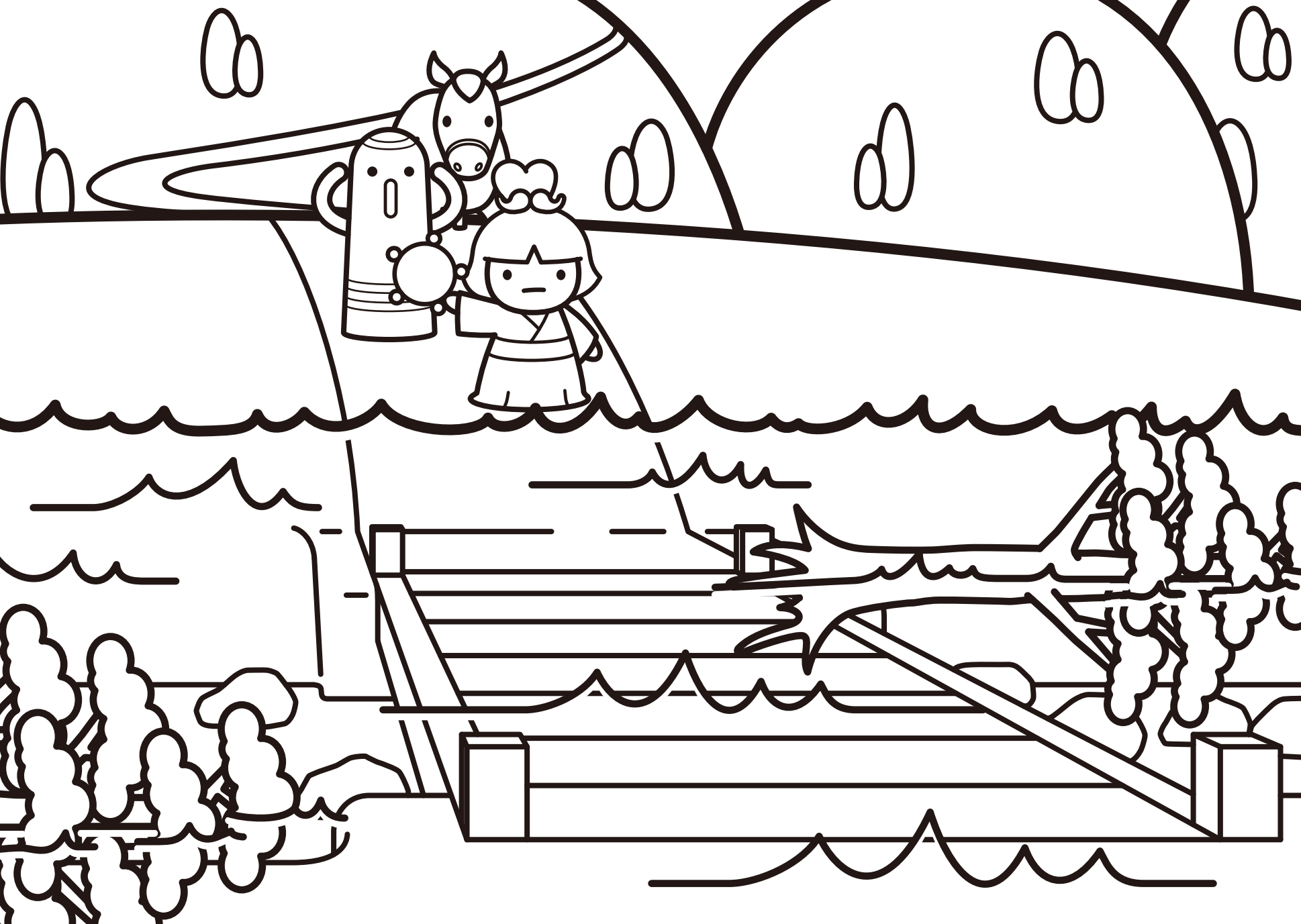
火が燃えている山に向かい、^む山火事はおさまりました。「これは不
思議。^{し ぎ}鏡さんありがとう」^{ぶ じ}こうして無事、^{とお}山の中を通ることができま
した。



やま ひら へい や み すこ ふる さと
山が開け、平野が見えてきました。「もう少しで故郷しだみだわ」と
ころが め まえ かわ はし なか しず
ころが、目の前の川がはんらんして、橋が川の中に沈んでいます。橋
わた さき すす
を渡らないと先に進めません。

しだみこちゃんは、^{こま}困ってしまいました。「そうだ！^{かがみ ちから か}鏡の力を借り
よう」しだみこちゃんは、^{ねが}鏡をふってお願いしました。すると、鏡につ
いた^{すず みつ な}鈴が三つ鳴り、^{こえ き}かみさまの声が聞こえてきました。
「しだみこちゃん。^{つち ていぼう}土をつんで堤防をつくってごらん」しだみこちゃん
は、言われたとおりに、^{うま て っだ たか}馬にも手伝ってもらい、土を高くつみました。
するとどうでしょう。

川の^{みず}水はおとなしくなり、橋があらわれました。「これは^{ふ し ぎ}不思議。鏡
さんありがとう」^{ぶ じ}こうして無事、橋を渡ることができました。



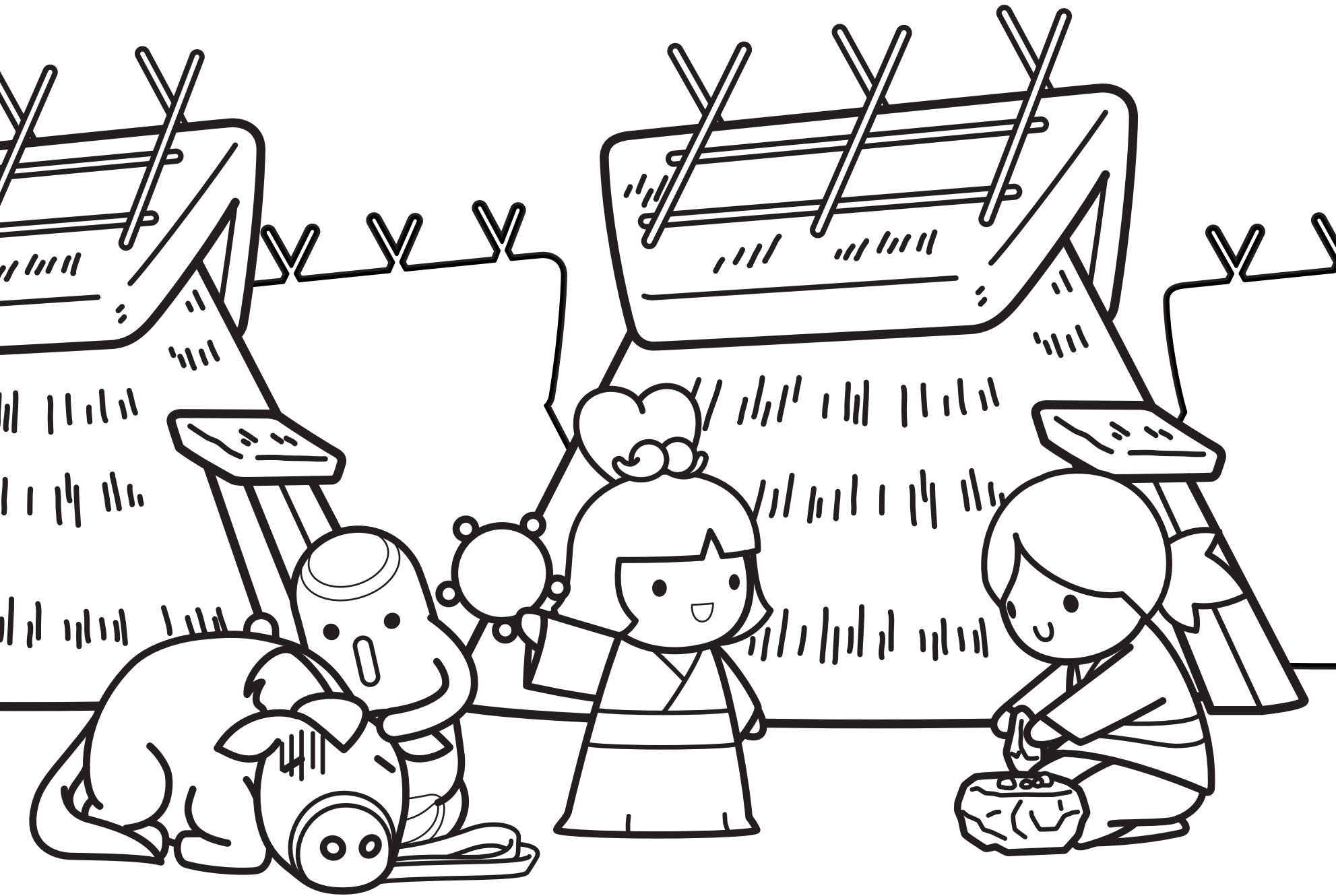
しばらく歩いてみると、馬の顔色が悪いのに気づきました。長旅と堤防づくりで馬の体調が悪くなってしまったようです。

しだみこちゃんは、困ってしまいました。「そうだ！鏡の力を借りよう」しだみこちゃんは、鏡をふってお願いしました。すると、鏡についた鈴が四つ鳴り、かみさまの声が聞こえてきました。

「しだみこちゃん。村人から薬をもらうといいよ」しだみこちゃんは、言われたとおりに、薬をもらうため、村人をさがしました。「弱った馬には、鉱物をくだいて作った薬を飲ませるといいよ」村人がそう言って、薬をくれました。この村人は、朝鮮半島から来た医者でした。

するとどうでしょう。

馬は元気になりました。「これは不思議。鏡さんありがとう」こうして無事、出発することができました。



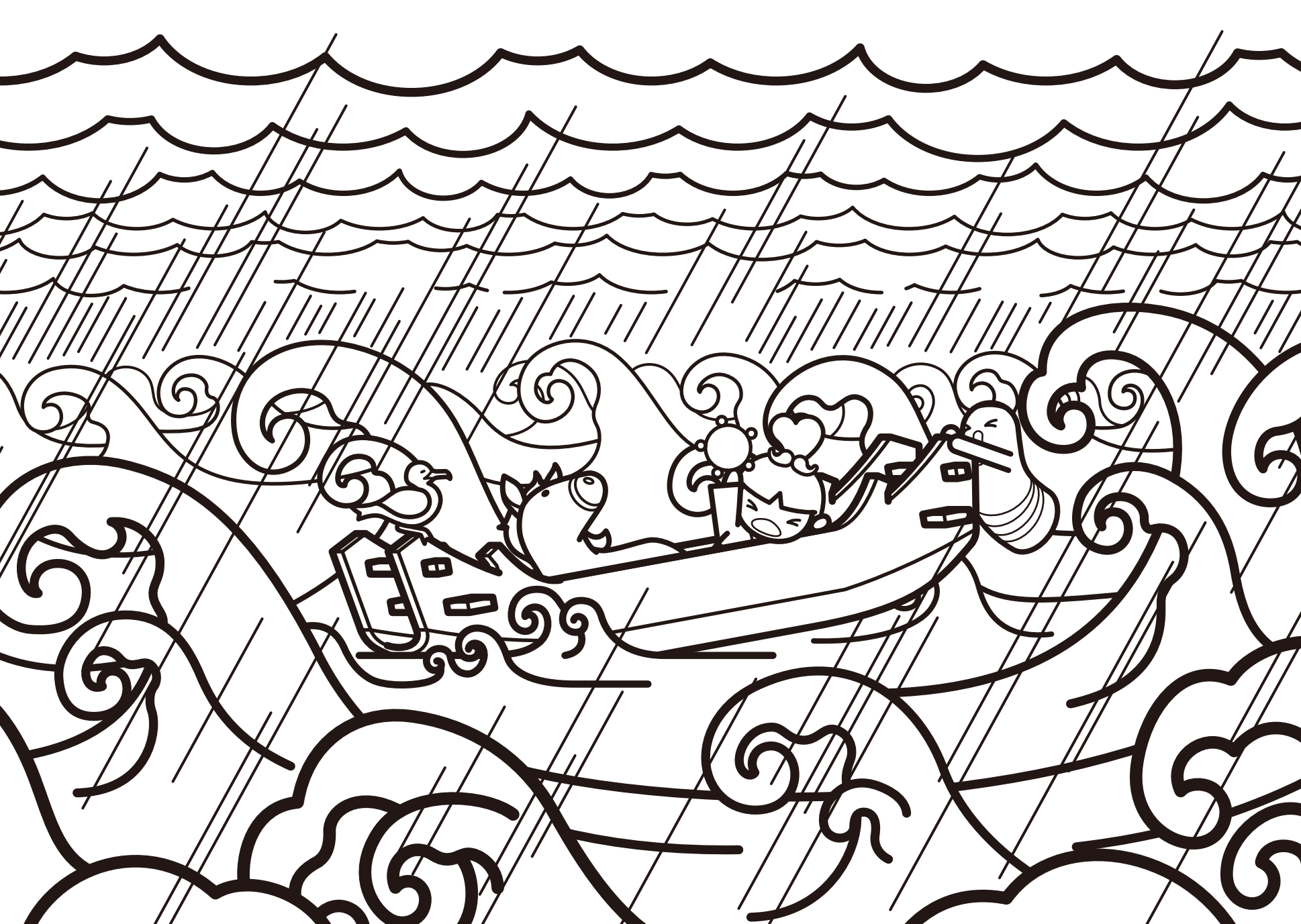
みなとから船ふねにのって、海うみに出でました。船ふねは順調じゆんちように進すすんでいきます。
ところが突然とつぜん、黒い雲くろくもが空そらをおあおい、雨あめがふりだしました。しだみこ
ちゃんうまと馬あおをのせた船ふねは、大きくゆれます。空そらを飛とんでいた水鳥みづとりも船
に避難ひなんしています。雨あめが船ふねの中なかにたまり、大きく傾かたむいてきました。

しだみこちゃんこまは、困こまってしまいました。「そうだ！ 鏡かがみの力ちからを借かりよ
う」しだみこちゃんねがは 鏡かがみをふってお願いねがしました。すると、鏡かがみについ
た鈴すずが五いつつ鳴なり、かみさまこえの聲こえが聞きこえてきました。

「しだみこちゃんぜんぼう。船ふねの前まえ方に海うみ水みづを入いれるといいよ」しだみこちゃ
んは、言いわれたとおりに、船ふねの前まえ方に海うみ水みづを入いれました。

するとどうでしょう。

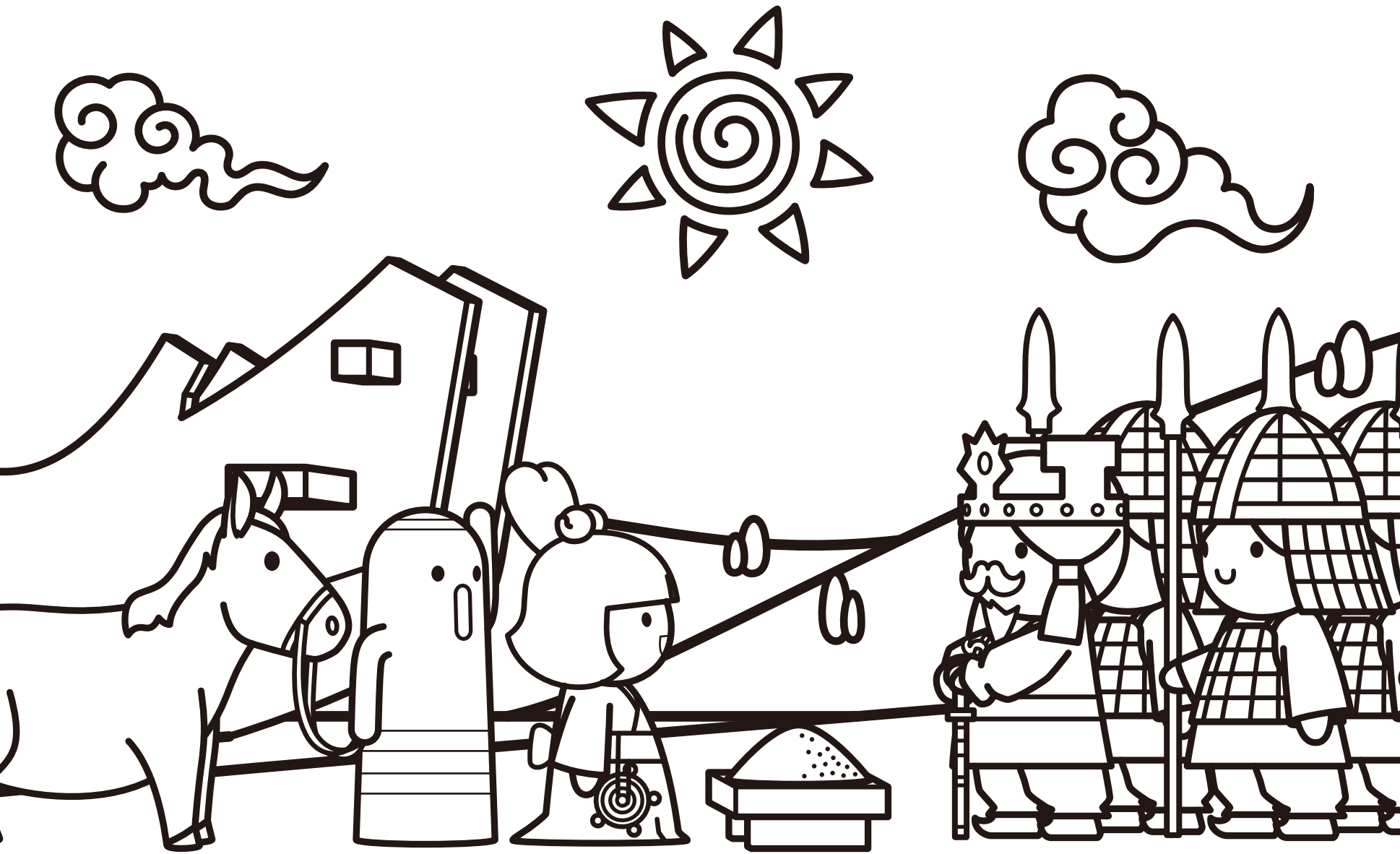
船ふねはバさランスがとれ、先さきに進すすむことすができました。「これは不思議ふしぎ。
鏡かがみさんぶじありがとう」こわうして無む事じ、船ふねは海うみを渡わたることすができました。



しだみこちゃんは、^{ふね}船を^お下りて^{おうさま}王様に^あ会い、^{うま}馬を^{わた}ひき渡しました。

「^{とお}遠い^{ところ}所からよく^き来てくれましたね」^{れい}王様は、お礼にこのクニでとれる^{あか}赤い^{まよ}魔除けの^{すな}砂を^{さず}しだみこちゃんに授けました。

「お馬さん、^{げんき}元気でね」「ひひーん」馬も^{わか}しだみこちゃんに^つ別れを告げます。しだみこちゃんは、^{うみ}また海を^{かわ}渡り、川をさかのぼってしだみに^{かえ}帰りました。



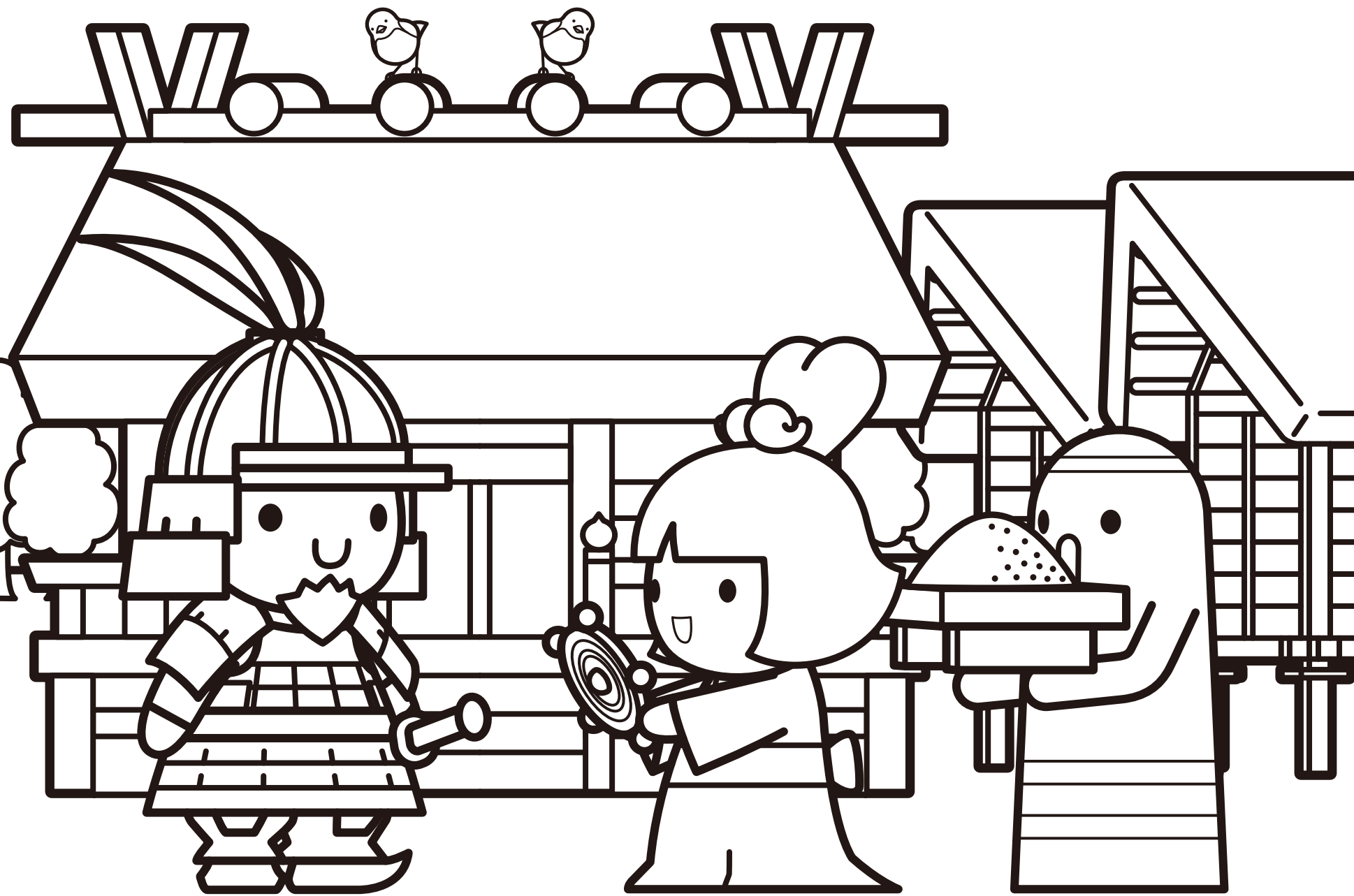
しだみの王様に、馬を海の向こうのクニの王様に届けたことを報告しました。また、旅の途中、魔法の鏡に助けられたことを話しました。

王様は言いました。「無事つれて行けたのは、しだみこちゃんの勇氣と努力のたまものだよ」しだみこちゃんは、それを聞いて少し自信がつかしました。「もう鏡の力を借りなくても大丈夫だわ」しだみこちゃんは、魔法の鏡と赤い魔除けの砂を王様にプレゼントしました。

王様は、この鏡をしだみこちゃんの勇氣と努力の証として、いつまでも大切にしました。

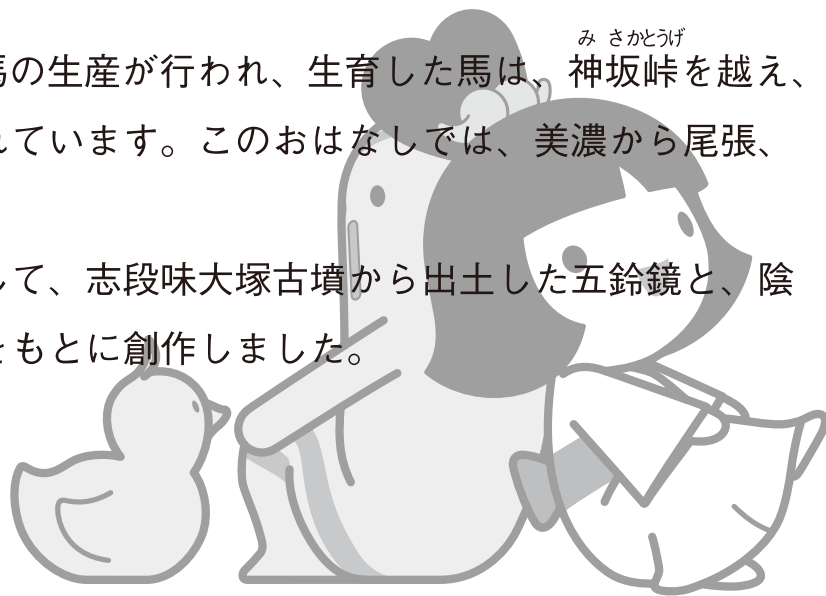
王様が亡くなると、赤い魔除けの砂が棺の中に入れられ、魔法の鏡も棺の中にしまわれたのでした。

おしまい。



5世紀中葉以降、伊那谷（長野県飯田市）では馬の生産が行われ、生育した馬は、神坂峠を越え、美濃を経て大和や河内へ運ばれていったと推定されています。このおはなしでは、美濃から尾張、伊勢と運ばれたと推定しました。

このおはなしは、その運搬時のできごとを想像して、志段味大塚古墳から出土した五鈴鏡と、陰陽五行説の「木・火・土・金・水」の五つの言葉をもとに創作しました。



ことば

陰陽五行説

紀元前3世紀前半頃、中国（東周）において、天地自然の全ての運行を陰陽二気で説明し、変動と調和の状態を解釈する陰陽思想が occurred。五行思想は、万物の形態は木・火・土・金・水の五要素からなるとするもので、陰陽説と結びついて、五種の気、宇宙にある5つのエネルギーとして万物の存在や作用の由来するところのものとされました。これらの思想（暦、天文、占いなど）は、百済を通じて倭国に伝えられました。欽明天皇15年（554）には倭国の要請により、五経博士馬丁安、易博士王道良、暦博士王保孫、医博士王有悛、採薬師潘量豊らが来朝しています。

ひうち 火打道具

「古事記」には、倭建命やまとたけのみこと（日本書紀は日本武尊）が、相武国やまとたけのみこと（相模国、日本書紀は駿河）の野において豪族の放った火に囲まれた際、倭比賣命やまとひめのみことから授けられた袋を開けてみると、火打道具（火打石と火打金）が入っていました。最初に御刀むらくも（日本書紀は叢雲という剣）で草を刈り（後に草薙剣くさなぎの薙という）、火打により火を付け、向火むかいびにより焼き退けて野から脱出し、国造等を殺害し火を付けて焼いてしまいました。その地を焼津というようになりました。と書かれています。

火打道具での発火方法は、古墳時代の終わり頃から奈良時代初め頃（7世紀後半～8世紀初頭）に始まり江戸時代まで使われていました。福岡県春日市竹ヶ本B遺跡から出土した「錨形鉄器」（弥生時代後期（A.D.1～2世紀））は、用途不明とされていますが、形状や大きさから火打金ひうちがねではないかと思われます。すでに弥生時代に火打金が使われていたことになれば、古墳時代に火打道具を使用してもおかしくないこととなります。

薬

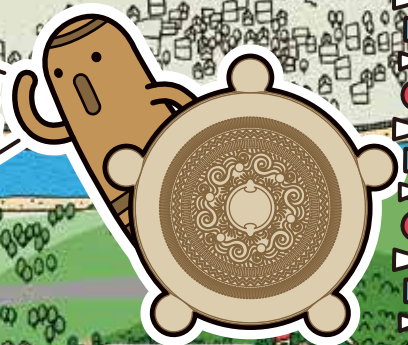
7世紀の藤原宮からは、薬の名前を記した木簡に鉱物由来の「黒石英、流黄こくせきえい りゅうおう」があります。薬と思われる「硫黄、白雲母、白石英、磁鉄鉱、琥珀または松脂こはく まつやに」も出土しています。当時貴重な薬は、くにが独占して収集していました。

朱

赤色の顔料で、ベンガラと呼ばれる鉄の酸化物と、天然のものは辰砂しんしゃと呼ばれる硫黄と水銀の化合物（硫化水銀 HgS）があります。西日本を中心として弥生時代から古墳時代には、埋葬する遺体の顔や棺、槨に、辰砂を塗布することがありました。古墳時代の辰砂は国内産で、辰砂の産出地のひとつに三重県多気町の丹生鉱山にうこうざんが知られています。丹生鉱山の産出は、縄文時代後期から知られており、698年（文武天皇2年）9月28日には、伊勢国すさから朱沙しゅさ・雄黄ゆうおうが献上されました。

れき し さと
「歴史の里 しだみ古墳群」へいこう!
しだみゆー こだい ごー
SHIDAMU で古代へGO!

めって あそぼう!
よんで まなぼう!



しだみおおつかこふん

しだみゆー
SHIDAMU はここだよ!



原作 いうあつし (学芸員)
発行 名古屋市教育委員会 文化財保護室
名古屋市中区三の丸三丁目1-1
2020 (令和2) 年3月31日